

社会福祉法人 山梨県社会福祉協議会  
甲府市北新1-2-12 TEL:055(254)8610・FAX:055(254)8614

<http://www.y-fukushi.or.jp/>

## 【特集】 「託児サロン」の原動力



P2 ▶ 8年目を迎えた「託児サロン」の取り組み  
忍野村社会福祉協議会

P6 ▶ 小児福祉機器展 in 山梨

P7 ▶ 見て・触れて・試して選ぶ福祉用具

P9 ▶ 福祉施設訪問(児童養護施設 あいむ)

P10 ▶ いきいき山梨ねんりんピック2013

P12 ▶ 福祉人材センター情報

● 福祉人材確保重点実施期間

● 福祉・介護のしごと魅力発信事業

P14 ▶ 山梨県認知症コールセンター

P15 ▶ 教育を支援する公的貸付・給付制度

# 小児福祉機器展 in 山梨

山梨県の障害を持った子どもたちとその家族に、より多くの福祉機器を実際に見て試せる機会をつくろうと、小児福祉機器展in山梨実行委員会では福祉機器を扱うさまざまな業者を一堂に会した展示会を行っています。今回は、代表者 有泉 静佳さんに設立経緯や展示会への思いなどについて伺いました。



代表者 有泉 静佳さん

## Q1 小児福祉機器展を始められたきっかけは？

A1 まず、山梨県の福祉機器に関する情報は少なく、あっても介護保険に伴った高齢者向けのもので、子どもに関する情報が特に少ないという背景がありました。そのような中、12年前から東京で「子どもの福祉機器展」という展示会が開催されるようになりました。その時にその参加業者さんから、山梨版の福祉機器展をやってみないかと言われたのがきっかけです。現在は、医療従事者の有志が集まる実行委員会形式で行っており、これまで6回の展示会を開催してきました。



## Q2 主な活動内容は？

A2 障害を持った子どもたちと家族向けの福祉機器展示会の開催です。障害に関しては、身体、知的、発達障害など幅広い方々に来ていただけるようになっています。展示品も、車いす、姿勢保持椅子、コミュニケーション、食品、日常生活用具等、多種多様なものを揃えるようにしています。また、展示会の開催中に外部講師を招いて、障害者支援に関する活動紹介などの講演会も実施しています。

## Q3 障害を持つ子どもたちや家族からの反応は？

A3 子どもからは「触れることで、意識が芽生える」様子が見て取れます。例えば、ベビーカーに乗っていた子が試しに車いすに乗って、自分で動かしてみたら凄い刺激になって、それをきっかけとして自分で移動したいという意欲が出てくる、といった様子です。また、当事者や家族からは、「福祉機器の選択肢の幅が広がった」という声や、「業者の方から各製品の特徴や利用する側の状況に合った製品の選び方などの説明を受けることができ、福祉機器に関しての理解が深まった」という声もあります。

## Q4 課題と考えている点は？

A4 来場者をいかに増やしていくかです。福祉機器展の業者さんの多くは県外から来るのですが、ある業者さんから、もう少し来場者が増えるようにしてほしいと言われたことがあります。現在、開催周知に関しては口コミがほとんどなので、今後どのようにしたら来場者を伸ばしていけるのかが課題です。

## Q5 代表者からのメッセージ

A5 この福祉機器展を通して、福祉機器に関して正しい情報を得ていただき、福祉機器がより良い生活の手助けになって欲しい。そのためにも、今後も活動を続けたいと思います。



